



小島一郎 つがる市木造 1958年

小島一郎

北を撮る

戦後の青森が生んだ写真界の「ミレー」

1月10日(土) — 2009 — 3月8日(日)

休館日: 1月12日を除く第2, 4月曜日 開館時間: 午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

◎観覧料:
小島一郎展 : 一般 800円(700) 大学・高校 400円(300) 中学・小学 200円(100)

小島一郎展+常設展: 一般 1,200円(1,000) 大学・高校 600円(450) 中学・小学 250円(150)

※()内は前売・団体料金 ※心身に障がいがある方と付添者1名は無料 ※小・中・特別支援学校の児童生徒及び引率者が、学校教育活動として観覧する場合は、常設展に準じて無料

◎前売券販売所: サークルKサンクス(サークルK: 青森、秋田、岩手県内の各店舗) サンクス: 東北各県、北海道、道南地区の各店舗、ローソンチケット、サンロード青森、イトーヨーカドー青森店・弘前店、さくら野百貨店青森店・弘前店・八戸店、三春屋、中三青森本店・弘前店、成田本店しんまち店Pax、紀伊国屋書店弘前店、県庁生協・青森県民生協、弘大生協、青森市文化会館、青森県立美術館ミュージアムショップ

◎主催: 小島一郎展実行委員会(青森県立美術館、日本放送協会青森放送局) ◎協賛: 青森銀行、フォト・ギャラリー・インターナショナル、株式会社堀内カラー ◎協力: 東奥日報社、青森市教育委員会 ◎後援: 青森市、青森県写真連盟、北陽会

◎助成: 青森県立美術館 野村国際文化財団 ◎お問い合わせ: 小島一郎展実行委員会事務局 〒030-0021 青森市安田字近野185(青森県立美術館内) tel: 017-783-3000 fax: 017-783-5244 <http://www.aomori-museum.jp>

青森 4
県立
美術館

AOMORI MUSEUM OF ART

青森、昭和30年代、北を撮り続けた写真家の熱く短い生涯

小島一郎 北を撮る

戦後、国産カメラの普及やフォトジャーナリズムの発展を背景にアマチュアの写真熱が高まった写真界において、生まれ故郷、青森を被写体とし、鮮烈な足跡を残した一人の写真家がありました。

小島一郎。大正13(1924)年、青森市大町(現：本町)で、玩具と写真材料を扱う商店の長男として生まれた小島は、青森県立商業学校を卒業後、出征。戦後の混乱期を経て、昭和29年頃から本格的に写真を撮ります。津軽の農家の庭先や雪原の一本道といった平凡な題材から、非日常的イメージを生み出す突出した造形感覚と確かな技巧は、日本の報道写真の先駆者、名取洋之助から高い評価を得、早くから東京でも紹介されます。昭和36年、プロのカメラマンを目指し上京。同年に発表した『下北の荒海』でカメラ芸術新人賞を受賞し、その後の活躍が期待されます。しかし、郷土を題材にした写真を本領とする小島は、今までとは異なる環境での制作の展開に苦戦を強いられます。募る焦燥感の中、東京での仕事の不振から脱け出すべく、北海道の四季の撮影を決意。昭和38年冬、現地に赴きますが、撮影は難航します。繰り返される過酷な撮影行に、体調を崩した小島は、期待した成果を得る事なく青森に戻り、昭和39年7月、39歳の若さで急逝しました。

津軽平野の秋の田で日が一日働く農夫たち。寒風吹きすさぶ下北の浜辺で、必死に船を引き揚げる漁師。都市から押し寄せる近代化の波の中、地方の寒村に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして力強く焼きつけた写真の数々は、その早すぎる死の後にも、展覧会や写真雑誌で取り上げられ、再評価の波は絶えることはありませんでした。

本展では、その濃密な生涯をリアルに立ち上げるさまざまな資料とともに、約200点の珠玉のオリジナルプリントを展示。今なお多くの人をひきつけてやまない小島一郎の強烈な個性に迫る初の大規模な回顧展です。



小島一郎 [小島弘子氏撮影]



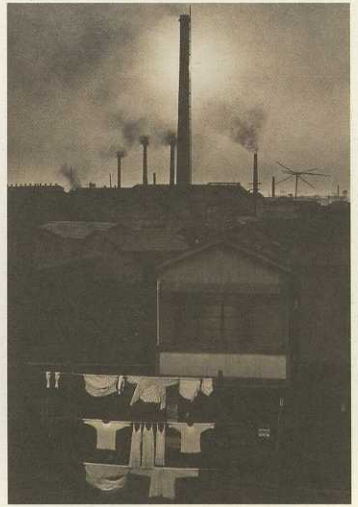
小島一郎 つがる市稲垣付近 1960年 個人蔵



小島一郎 つがる市木造 1958年 個人蔵



小島一郎 下北郡大間町 1961年 個人蔵



小島一郎『東京の夕日』より 1961-63年 個人蔵

■オープニングイベント

シンポジウム「小島一郎と北の写真」

日時 : 2009年1月10日(土) 13:00-14:00
 場所 : 青森県立美術館シアター
 定員 : 200名(当日先着順) *入場無料
 パネリスト : 露口啓二(写真家・札幌市在住)
 豊島重之(ICANOFキュレーター)
 モデレーター : 高橋しげみ(青森県立美術館学芸員)

特別上映会+トーク「撮る場所、生きる場所」

特別上映会
「カメラになった男——写真家・中平卓馬」
 [小原真史監督作品](91分)
 1970年前後に、カリスマ的な写真表現の旗手として脚光を浴びた中平卓馬の現在を追うドキュメンタリー映画。
 日時 : 2009年1月10日(土) 14:15-15:46
 場所 : 青森県立美術館シアター
 定員 : 200名(当日先着順) *入場無料

トーク
 日時 : 2009年1月10日(土) 16:00-17:00
 場所 : 青森県立美術館シアター
 パネリスト : 小原真史(映像作家)
 北島敬三(写真家)
 高橋しげみ
 モデレーター : 豊島重之

■特別展示

「小島一郎の北海道」

小島一郎の最期の撮影地となった北海道の写真を中心に、青森県八戸市を拠点にアート活動を展開するグループ「ICANOF(イカノフ)」の豊島重之が企画・監修し展示を行なう小島一郎展の黙示録の終章。
 企画・監修 : ICANOF 豊島重之
 場所 : 青森県立美術館企画展示室E
 *入場にあたっては本展観覧券が必要です。

■シアターイベント

「写真の声」

小島一郎写真のライドショーに、写真から抽出される「声」をあわせて展開する朗読劇。
 企画・監修 : 長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)
 日時 : 第1回公演 2009年2月7日(土) 14:00-[約30分]
 第2回公演 2009年2月22日(日) 14:00-[約30分]
 場所 : 青森県立美術館シアター
 定員 : 200名(当日先着順) *入場無料

■担当学芸員によるギャラリートーク

開催日 : 1月10日(土)を除く、会期中の毎土曜日、日曜日、午後1時から、担当学芸員による約30分のギャラリートークを行ないます。[参加料は無料ですが、当日有効の本展観覧券が必要です]



名刺判のプリントが貼り付けられたアルバム

記念写真集/展覧会カタログ『小島一郎写真集成』

青森県立美術館=監修 インスクリプトより、2009年1月上旬発売
 B5変型判・上製・216頁 予価=3800円+税

青森県立美術館
 AOMORI MUSEUM OF ART

お問い合わせ : 小島一郎展実行委員会事務局
 〒030-0021 青森市安田字近野185(青森県立美術館内) Tel.017-783-3000 Fax.017-783-5244
 PC<http://www.aomori-museum.jp> モバイル<http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile/>



(交通のご案内)

- JR青森駅から車で約20分
- 青森空港から車で約20分
- 東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約5分
- 市営バス青森駅前2番バス停から免許センター行き・美術館経由
 「県立美術館前」下車(所要時間約20分)
 ・美術館経由以外
 「三内丸山遺跡前」下車(所要時間約25分、下車徒歩5分)
 「総合運動公園前」下車(所要時間約15分、下車徒歩10分)

